『南支派遣皇軍慰問行記』（上）

藤　井　奈　都　子

先般、偶然『南支皇軍慰問日記』と題されたノートを入手した。自分の専門外の資料ではあるが、そのために埋もれさせるのも申し訳なく、ここに（上）（下）に二分割して全文を公開し、その方面の研究の一助となることを願う次第である。

・旧字体を概ね新字体に改めた以外は、用字・句読点等みな原文通り。
・団員名はプライバシーに配慮し伏せた。

【表紙】 南支皇軍慰問日記／昭和十七年十一月十三日／仝十八年二月十八日／愛知県慰問団／団長豊橋市助役／藤井塼溪

【扉】 南支派遣皇軍慰問行記／昭和十七年十一月十三日出発／昭和十八年二月十八日帰還／団員名　／団長　藤井塼溪　豊橋市助役／副団長　長谷川佐市　一宮市兵事課長／団員　　岡下〇〇〇　豊橋市女子〔青年／代表〕／仝　白井〇〇　〃／仝　石田〇〇　〃／仝　　澤本〇〇〇　一宮市仝／仝　小島〇〇〇　〃／仝　宇都木〇〇〇　〃／仝　近藤〇〇　〃／以上

【本文】 昭和十七年十一月十三日　晴後雨／待望の日は来た、午前四時起床準備／完了、町内の人々我が家の前に集合す／家人に別れを告げ氏神参拝町総代／の壮行の辞を受け「任務遂行」を／誓ひて真清田神社へ向ふ途中は出／征兵士の如く軍歌に送られる此の／感激何にたとへん‼七時半一宮／班集合神前に祈り市長より激励の／辞を受け駅へと行く、駅頭には女／子青年婦人会、銃後奉公会、／市職員、市民町内会等見送り／多数八時三分上り列車来り故郷に／名残りを負しみつゝ歓呼に送られ／汽車はすべり行く。／午前九時半県庁へ集合、護国神社、／熱田神宮に参拝。名古屋ホテルにて／総務部長、援護課長等と昼食／なし後師団司令部に到り御挨／拶をし試演会を催す、／四時県庁職員に演技披露する／名古屋駅七時五十分下り急行にて／九時半神戸駅着。／神戸館に到り父母と共に安きねむ／りにつく。／明日の船出が浮び来て仲々ねむられぬ／外には雨か降つてゐる。

十一月十四日　雨／午前八時起床、手荷の整理をする、白／粉不足不足の為め近くの大丸に母と買ひに／行く、久綱の叔母様見える、十時半／宿舎出発港に向ふ、雨は大降りにて／とても大変、十一時半乗船、十二時出／帆のドラがなる、別れ船本当に感／無量前途を思ひ心を引きしめ一同／涙一つなく元気に青少年団歌を合唱／し日の丸の旗をふる、父母達旗をみつめ／て満足さう、九千五万頓の富士丸は刻／一刻と別れ行く岸壁遠く雨にかすみ／次第に見えなくなった／ホツとして船室に入る、陸軍御用と掲示／してある、船は静かに瀬戸内海を行く／夜舞踊の練習する、パジヤマ姿に一／同顔見合せて笑ふ、乗船第一夜はと／ても静か――。

十一月十五日　晴／午前八時門司着沢山の人々乗り込んで／来た、正午出航すとても波は荒らい／出船三十分後船長は危険を宣告す／万一にそなへて避難訓練を三回する／海上は波高し、そろゝゝ船酔始まる／私は酔ふ事を知らず元気

十一月十六日　晴／見渡す限り海原岡下さんと私だけ元／気二人は一番食べ大将でも一同は元気／お八つにお茶を立てゝのむ味は格別／なり、ジグザク航路にてとてもゆれる／時間の感念がなくなる様でとてもつらい

十一月十七日　晴／朝起きて窓より外を見て驚く、見た／事もない漁船一隻乗つてゐる人は支那／人だよく聞けば支那沿岸とのことな／る程と思ふ、／相変らず船はゆれる、明日は台湾へ何／事もなく着く様祈る、この命はおし／まねど任務を果さで死ぬるのはいや、／石にかじり付いても慰問行を完了／せねばならぬ故、夜に入りさらにひどく／ゆれるさすがの私も一寸頭痛をおぼえ／た夜半は船が全速力で進んでゐ／る様である

十一月十八日　晴／午前八時半基隆着、九時上陸す／長い陸橋を渡りて駅に到着売店に／てキヤラメルを見付けて大さわぎ十時／十分発台北に向ふ、台湾神社、総督／府、新公園等を見学、朝陽号旅／館に宿る

十一月十九日　晴／朝六時半起床、九時三十分発高雄に／向ふ急行とは言へ何とゆれること、／桃園→新竹→竹南→苗栗→豊原／→台中→鳥日→彰化→二水→斗六／→斗南→嘉義→新営→蕃子田→／台南→岡山→高雄。見るもの珍し／耕牛、水牛にまたがり田に行く農夫多し／台中より煙草の栽培盛なり彰化あ／たりより砂糖きびの林つゞき台中にて／弁当を求む、十一月下旬と言ふのに台／湾は南瓜の花盛り茄子はこれから花咲く様子／バナナ林ありて青き実が重そうにぶら下がつて／ゐる嘉義には北回帰線標が建てゝある／台南よりは見渡す限り稲田ばかり五時半／港近くの春田館に宿きまる海ばたの見晴／し良き部屋とて気分よく只夜分は管制／がとてもきびしく十二時に着床

十一月二十日　晴／正午東洋産業の招待にて亜細亜にて洋／食のご馳走を戴く、午后は踊りの稽古を／なし夜は番組の編成をする、美味のおまん／じゆうに舌鼓うつ

十一月二十一日　晴／すがゝしい朝の潮風に目がさめる昨夜は／ヤモリの無気味の鳴声を聞いたが今は／何所へやら、十一月末と云ふのに此の高雄／では浴衣がけ午前中は踊りの稽古の／所要時間を計る、昼食後町へ出かける／夏服なのに汗にぬれる蓄音機を修／繕してもらふ憲兵隊にて白紙を貰う／喫茶店にてお茶をのみ羊羹を求め／て帰る

十一月二十二日　晴／午前中リツクを修繕する午后一時半の／汽車で屏東に行く蕃屋を見物す／屏東神社に参拝台湾製糖会社／へ見学に行く、そこには有名なる端／竹あり皇室のいや栄を祈る帰高の／折海軍航空隊の出動車に乗り込み／唄の慰問をする熱し切つた顔に一同／きわまりて泣く夜一同の髪を結び団／長殿と大笑ひお抹茶を頂き楽し／く夜は更けて行く

十一月二十三日　晴／いよゝゝ日本とお別れの日が来た九時／半宿舎出発税関にて荷物の検査を／受ける、加藤部隊の大尉より乗船中／の注意あり／滝口少尉輸送指揮官となる御用／船は三千五百頓の天領丸である／午后一時出帆昼食はぬいてしまう非常／訓練をして後夕食までねてしまう／五時夕食船はとてもゆれる皆元気／波はシートにかゝる音がする／夕食は「かれいの煮付と大根績。

十一月二十四日　晴／七時起床私達の持参の洗面器にて顔／を洗ふ七時半朝食御飯が沢山なの／でお向いの兵隊さんにあげる、お八つには／せんざいを戴く御飯のお礼に兵隊さん／がお砂糖を下さる美味しくたべる四時／汕頭に着く五時夕食後着物にか／えて上陸し戦地で第一回の慰問を行ふ／お蜜柑とおまんじゆうを沢山たべる十一時／帰船す。

十一月二十五日　晴／七時半起床お船は動いてゐない／団長方上陸さるお八つには羊羹にて／お抹茶を戴く兵隊達にお茶の講義／を一くさり五時出帆、波はひどく高い／船は木の葉の如くゆれる一同声なし／夜は便所に行く途中波をかぶり下／着までぬれる気持の悪いこと。

十一月二十六日　晴／昨夜ぬれたおかげで右淋巴線がはれる／喉が痛く食事がとれない湿布すれ／ど風薬をのめどアア！益々痛い。／熱さへ出て来た、午前十一時頃香港島が／見え出した食事を早くする十時に西瓜／を沢山たべたので食事はまづい、／一時に九竜へ上陸団長は総督に面会／に行かれる宿舎の指定ありて東洋一／の東亜ホテルに行く丁度六時だそれ／まで埠頭にゐたので風に吹かれます丶丶病ひはつのるやつとの事で部屋に落付／けど言葉は通ぜず手まねでボーイと話／す夕食は洋食お腹はふくれず一宮出身／者の細野氏来訪美味しいアイスクリーム／を戴く体はぬけるほどだるく頭はボウー／としてゐる、やはらかいベツドにやすむ

十一月二十七日　晴／六時起床まだ暗い宇都木さん昨夜ベ／ツドより落ちる七時十分前食堂に行く／味噌汁に魚ライス、サンドウイツチを／昼食に持ち荷物を持つて埠頭に／行く熱があるので冷汗が出て来て苦し／かつた八時出帆す汕頭より一緒にな／つた軍医さん軍楽隊の方々と愉快に語り合ふ／虎門一時半黄浦二時半通過すここは／正午頃敵機来襲し来り大きな船一隻／と若干の民家をこわして行つた、まず丶丶命びろいをする／三時四十分広東着軍司令部までトラ／ツクで送られ挨拶し大倉部隊に宿／舎きまる五時半将校宿舎に落付く／まだ依然として喉が痛い

十一月二十八日　晴／七時起床のんびり支度してゐて副団長／に叱られる朝食後大倉部隊長に挨拶に／行きバスに乗り南支軍司令官に御挨拶／屋上会議室で副官より注意を聞き／帰途医務室により喉の薬を付けて戴／き「皮膜性偏頭線炎」と云はれジ／フテリヤにならぬ様注意をされる一時／過舎に帰る食事後街へ出るくさく／てマスクがとれぬ恵愛中路はにぎ／やか、中山公園を見物し白十字と言／ふ喫茶店に入る、田舎じるこを食しお／砂糖屋前はスローモーシヨン一同満足／天下下なし／帰途隊長の車にのせて貰ふ夕食前／兵隊さんに写真をうつして貰う。／夜は正副団長兵団長の招宴に行／かれる我等は踊りの稽古する

十一月二十九日　晴／九時半まで準備して待つて居る司令部／よりバス来り市中見物　フランス租界／沙面見学此辺の民家の日軍空爆の／正確さにおどろく一度帰舎二時／半南支軍より迎えあり演芸を行ふ／副官部の方々より優遇された五時／半終了将校食堂にてお菓子沢山／たべる司令部のバスにて鳳兵団え行／く兵団長の官邸で遊ぶ私達の為にアン／餅を作つて下さる次から丶丶に出るお菓／子に甘くなりさう将校方達と食事する／寿き焼なれどおまんじゆう腹にてたべるこ／とか出来ない、／七時半より仕度八時演芸開始マイク／アリ。コンデイシヨン満点十時半終り／トラツクに送られ十一時過ぎお土産付にて／宿舎に帰る

十一月三十日　曇時々雨／十時中野軍曹トラツクに迎えに来る／今日より待望の前線めぐりトラツクは／幌付ソフアが三個すばらしい乗車直に出／発石位頭の渡しを車と共に渡り藤街／道を直すぐに十一時半仏山に着く砂／ぼこりで大変人形部隊挨拶後仏山ホ／テルに落付く食事後近くの映画劇場／にて二時より開始す奥待の無い舞台／とて踊りにくい　四時半終る／園田軍曹の案内にて市中見物支那人／達は異様の目で振袖姿の私達を見／てゐる久し振りのお蒲団に嬉しくなる／夜南條軍医中尉と萩野中尉面会に来る、

十二月一日　晴／七時半起床半後食事着物きて演芸／場に行く十時開始十二時終了食事／後団服に着換へて二時半トラツクにて／野戦

病院を見舞ふ仏山停車場へ／行く汽車は我等を待つてゐたトラツクと／共に汽車に乗る、／二時間位で三水に着く八九六四部長に／行く部隊長病気入院中副官に／迎えられる私達の顔を見るやいなや／おぜんざいの攻撃、情報は正確な事／お風呂に入つて八時より将校連と会食／する美味しい焼□〔「米」扁に「面」〕を二はい白崎中尉／と年の当てつこをする石原中尉は得／意のテナーを発表兵隊さんが床を引／いて下さる十一時半着床山鳩の泣き／声も淋しい。

十二月二日　晴／七時半起床昨夜二時頃西南に敵の／攻撃あり副官の命令やら出動やらで／驚いたけれど一同顔見せて又床に入つた／起きてさわげば皆さんの迷惑と思つたか／らだ／今朝になつて見れば何事も無かつた如く／初秋の如き風が吹いてゐる戦場の常／として戦死一、負傷二の犠牲者が出た／十時より近くの演芸場で慰問興行／出動部隊もあつて人員は少ない、／演技後トラツクにて最前線横江へ／行く肉沢山の昼食に舌鼓を打つ／後陣地見学レンズに写つる敵陣、我／も戦はん……と思へり慰問団一度も／来りし事なく橘隊長はとてもお喜／び二時半より慰問を行ふ後美味しいぜん／ざいを戴く名残り惜しみつゝ六時半出発／危険なる帰路も真直ぐに急行する／トラツク三水着は七時半過ぎ副官は／心配して途中まで迎ひに出て居られた／夜は会食あり

十二月三日　雨／六時起床三水とも今日はお別れ七時頃／石原中尉のみ残り全部現地見学に／行かれるので一同お見送りする明けや／らぬ大陸の朝は寒い／八時ヤンマーにて出発三十分程川を／下り元山水なる新圩へ行く其の頃から／風雨となりとても寒い九時より慰問／開始演技中雨は舞台に漏り全身／すぶぬれ兵隊さん達もびしよぬれ／之を見て一同涙だを流した／十一時終了余りの寒気にお酒を少々／口にする一時過ぎヤンマーにて三水に／帰り一服お菓子を頂き二時十分三／水出発広東に五時過ぎ到着す／夜は洗濯などする。

十二月四日　晴／今日は休養日団長は横浜正金銀／行支店に行かれる昼食後は佐／藤防疫給水部隊、堀井錬成部／隊、都築通信部隊に挨拶に／行く堀井部隊では油揚うどん二／杯ぜんざい二杯を食べトラツクに／乗るのに苦しい位夜大倉部隊にて／演芸をするお夜食におすしやお／まんじゆう等を食べる、

十二月五日　晴／十一時までに準備して待つてゐる迎へら／れて鳳兵団へ行く中村部隊にて／慰問演芸を行ふ今日もぜんざい／の御馳走になる／夕食後司令部へ「英国落つる日」／を見に行く、ねくくて又寒くなる

十二月六日　晴／七時起床身支度して大陸にてラヂ／オ体操を行ふ気分仲々よろし／九時兵団より誘導下士滝軍曹が／トラツクを同乗し来たる／風は強く砂ほこりがひどく寒い南村／、大平城、神岡へ着く此所は／最前線で十一時着す米良中尉と／共に昼食し後演芸、歌舞伎風の／舞台にて気分大変よろし、道路の／修理など苦力が働いてゐるが皆「スパイ」／との事大変なことだと思ふ／三時にお別れして大平城へ行く四時／から演芸を始めるこゝは連隊本部／故お歴々多々的…。／六時終了副官のお部屋をかりて一服／お風呂に入つて会食に行く今日は十二月／一日附進級将校の披露と併せて盛／大な宴会なり斎藤部隊長大きな／身体に似合はず細い声にて小唄／を一くさり。すき間風来りて寒し。

十二月七日　晴／七時半起床朝食後附近の病院へ見／舞に行く九時出発一時間位で竹／料に到着二時演芸開始五時終／了休憩の後将校方と寿き焼をす／るお酒がまわり良い御機嫌である／九時頃終り部屋に帰る／加藤少尉（フランス人形）が来り広東語を／教えてくれる／チヨイキン（左様なら）吾中意（ゴチユウイ）／（我君を愛す）トウチエ（有難）其の上／字名まで付けられる、／白井（ナイチンゲール）岡下（お吉）小島（幾／松）揚子（金太郎）宇都木（桃太郎）／石田（小島高範）澤本（マ

ダムバタフライ）
十二月八日　晴／七時半起床英霊に参拝する、十一時／半南村に到着昼食后ゆつくり／支度する部隊長はとても歌がお好／き「海行かば」合唱、四時慰問演芸を／終了六時より会食する愉快な将／校ばかり藤崎中尉川島少尉田谷／副官等とても面白い方々、板津部隊／長は国の娘さんを思ひ出されて私達を／可愛がつて下さつた十一時頃チヤチル／給与のコーヒーを飲む
十二月九日　晴／朝英霊をお見送る九時部隊長／と朝食を頂く部隊長方に見送ら／れて十時出発、十一時新街へ着く／早速昼食をとり仕度をする未富少佐／は本年二十九才元気でかたまつた人みた／いである、演芸は二時半より始め五時／終了、美味しいウイスキ入チヨコレト二杯飲／む六時頃出発、南村で小休止七時過／ぎ大倉部隊に帰る、夕食後は一同／整理などする、
十二月十日　雨／九時過まで休んでゐたので副団に叱られる／急いで朝食をなし洗濯する感想文／を書き二時過ぎ街に出る第一、第二酒保／に行き又双葉洋行に行き種々買物／をする、三水の市江部隊長にお目に／かゝる中日へ行き夕方は大三元へ行／く県人会の招宴である純酔の支那／料理を食すあひるの水かき、ぶた／の丸焼蛇、ねずみの児等ゲテ物ばか／り故一寸驚く一宮市出身の方も大／分居られた／十一時半頃床につく。
十二月十一日　晴／朝寝防する大急ぎで食事に行く／手紙を書いたりマスクを作つたりして／午前中を過ごす二時半頃支那人街／に行き買物をする途中滝口少尉に出／会ふ／夜は島田軍曹のお部屋で御馳走になり／一時床に着く、
十二月十二日　晴／七時起床ラヂオ体操をなし朝食を／とりレコード等の手入れをする十一時兵／団のトラツク来たり萩野警備隊／へ行く将校と昼食を共にし二時より／演芸を開始する見渡す限りの広場／にお池あり小川あり茶室がある、忠魂／碑に馬頭観音などあり／部隊長と写真を取り五時半お別れ／して宿舎に帰る夜は大東亜に行／き支那芝居を見る十一時半帰舎／直に着床す
十二月十三日　晴／朝宿舎の引越をする十時出発／二時間後に石橋頭へ到着す／四方は緑の山、松の木もある内地の風／とよく似てなつかしい二時より演芸を行／ひ終了后川上部隊長へ抹茶を差上げ／入浴後隊長及高級副官ト夕食を／共に戴くお酒にて御機嫌上々後には／若手将校連も来りさわぐ十一時高級／副官の部屋で一同共にお茶をのむ
十二月十四日　晴／朝とても冷える「女の希ひ」を合唱部隊／長に御挨拶し連隊旗を奉拝して後／出発し関東座に行く途中は道路極めて／悪くお腹がひつくりかえり相である／十時より演技を始める十二時過ぎて／将校方と昼食を共にし一時半出発／朱村へ大急ぎで走り三時より演技を／始め終了後早速出発東へゝゝと走り／六時半頃増城に到着すこの町は全／く廃墟となつてゐる戦前は人口十万あ／り風光明美なりしも今は全く昔日の面／影なく只川に映つる月影のみが美しい／入浴後は墨画の上手な中隊長と食／事する、
十二月十五日　晴／八時起床朝食後着物を着て演芸場／へ行く九時半より始め終了後は大急ぎ／にて食事をなし石灘までトラツクで／行く敵の爆破によつて橋はなくトラツク／はこれから広東に帰り私達は石龍へ行／くガソリンカーに乗車石竜に着きトラツク／にて部隊本部へ着き風呂に入り八時頃／より将校連と会食する高沢部隊長は／名古屋出身で面白い方で岩本中尉はよく／お酒を召しあがり白鉢巻の唄の譜を書い／て明日は伴奏すると大張り切りである／とても面白く時を過ごす只蚊えぶしが／くさい
十二月十六日　晴／中央公園にて演芸を始める約速の通／り岩本中尉はハモニカで伴奏して下さ／つた終了後ヤンマーにて川を下る石／灘より汽車にて帰広の途につく駅／まで兵

団のトラツクが迎ひに来てゐて／久し振りで大倉部隊に帰る夜は／小島さんが「ひようそう」にて松本部隊／へ行く。／右で仏山方面、流渓水方面、及／東江地域の前線慰問行を終る。

十二月十七日　晴／（本日より広東近郊）／九時出発中山大学跡に行く孫文の希み／なる立派な学堂で一週すれば一日はかゝり／さうな広大さ、旅団長は最近着任された／ばかり兵器の検閲を行つておられた十時半／より演芸開始大きな舞台でお芝居も／出来きそう、マイクの調子も良くアンコール／攻め松尾兵長はとても良い御機嫌一時に／漸く終る／それより将校方と会食する文学院の跡でと／ても柔かいお部屋の感じである旅団長も／良い方将校方も仇名の面白さ、藤沢中／尉はお公卿様、高級副官は仁丹次級副／官が「テゴテ」大仏様、ホルモンタンク、ビンチヤン／坊や、ビスケツト等統一取れた人々……／午后三時より午後の部の演芸を始める旅団／長が中央に居られる、又々アンコール攻め六／時終了す全く疲れる、我々一同旅団長／のお気に召して夜宴を張るとの事南／副官汗だくになり準備、天文台なる官／舎で美しい部屋、かしわの寿き焼、余り／の愉快さに時を忘れる、十時過ぎシユー／クリームのお土産を持つて宿舎に帰る、

十二月十八日　晴／七時二十分起床ラヂ体操後朝食、／屋上にて白井さんに「そうだ其の意気」を／教えてあげる十一時半トラツク来る赤／茶色のほこり立つ路を三十分余走る白／雲警備隊に着く連隊長不在、大隊長／と会食をなし二時より演芸を始める／植村副官は丸い顔にてユーモアで絵が／上手なり、本日喉の調子悪しくアンコー／ルに泣きたいほどである／五時半終了兵器見学暮色せまる頃／広東に帰る／夕食後入浴洗濯などして日記の整／理などをする、

十二月十九日　晴／朝食後和服にて仕事してゐたら団長に／叱られる、団服にて十時頃トラツクで／外出、有名な六榕寺へ行く十七層に／なる花塔に登ぼれば一望千里曇／つてほんやりした景色の美しさ後／支那街にある五百羅漢を見学する軍人／軍属立入り禁止区域とて誘導官連／中拳銃の安全弁をはづして進む、／愛群ホテル背景にして松尾さんより／写して貰うそれより西村へ行く、ビール／会社、セメント工場等アリ　工業地帯とて／演芸場も倉庫である大会場も大入り／にてとても張切る、アンコール続く声は出／なくなる位終了後県出身者の伝言を聞／く七時半より原田中尉に女青の活躍振／りをお話しする、八時半宿舎に帰る藤／崎中尉、米良中尉が来訪思ひがけない／ので一同驚く色々お話などして十一時／お別れする、

十二月二十日　曇り／十時半出発七十二烈士の墓詣りをして／中山大学内の騎兵隊（広瀬部長）へ／行く昼食後二時半演芸を開始して五／時終了一寸休憩して問口部隊に行／く夕食後七時半演芸開始大学の／大仏様（旅団副官）に再会「ナムアミダ／ブツ」演芸最中停電暗黒になる、ね／子ちやんが柳の雨の途中で悲鳴をあげ／楽屋へ飛び込んで来た九時半終了兵隊／さんと面会後お夜食を食べて十一時／頃大倉部隊に帰る今日で鳳兵／団とはお別れ明日お別れの宴、中野／軍曹、松尾兵長ともお別れなり

十二月二十一日　曇／今日は久し振に休養日なので八時半まで／休む食事後種々整理の後お抹茶／を立てゝ一服する外出の準備してゐると／藤崎、米良中尉来る娘七人中尉殿二人／ヤンチヤーにて食苑「コロンボ」へ先頭が／米良中尉娘七人後衛が藤崎中尉／閣下にも似た我等支那料理は美味く／そして若き者の楽しさ本当に良き休日／二時半頃ヤンチヤーに乗り宿舎に帰る／それより鳳兵団の招宴に行く兵団長／は良い方で又日本食なので故国を偲ぶ／九時半過ぎお別れする夜島田軍曹／のお部屋に行き御馳走になり一時／過ぎ休む

十二月二十二日　曇／午前中休養キヤツチ

ボール、テニスなどし／て遊ぶ午後団長方憲兵隊と打合せ／に外出される船で一緒だつた植野／さんが面会に来られた小倉副官とア／ミダくじをして御馳走になる面白かつた／四時半都築部隊より迎へあり行く／隊長と会食後東山の元女学校講／堂にて演芸開始マイク悪しく遅くれ／る放送局の技師や技手が一生懸命仕／度たが間に合はなかつた、一時過ぎ／着床

十二月二十三日　雨／雨降りにて一同寝すごす私と揚子／と石田さんの三人のみ朝食する一同編／物に熱中し時間の過ぎるのを知らず／昼食后瀧口少尉部下を沢山つれて／来訪す、／一時半頃東山の池永部隊より迎へあ／来る高地少尉の照明にて演芸開始、／官舎は何にし負う宗公館テニスコート／地下室などあるが地下二階まで水が一／パイである最近は怪物も出ないとの／事、六時頃二階にて食事する都／築部隊長も来席された／七時より夜の部演芸を始めるアンコール／続く終了后お茶を戴き乗用車／で大倉部隊に帰る夕食前池永／部隊長の案内で汪精衛氏の別荘／を見学に行つた。

十二月二十四日　曇／午前中休養午後団長殿と買物に出／かける夕食後憲兵隊本部より迎／えあり乗用車二台トラツク一台来る南／支憲兵隊本部なので誠に立派な演／芸場である七時演芸開始九時半／終る美味しいにぎり寿司を戴く

十二月二十五日　曇／香港を占領して三週年朝寝坊する／午后石田さんと外出す白十字でケーキ／とコーヒーを飲む将校方とお話するお／土産にお菓子を持つて帰舎する／今日のお祝のお餅つきする、夕食に／お餅煙草携帯飲料かたぱん／等を戴く夜は三時まで編物をする

十二月二十六日　曇／午前午后休養編物などする四時半／八名部隊よりお迎え来る部隊の食／器の立派なのに一同驚く演芸場が倉／庫なのでとても寒く風を引きそうで有／南支の冬もさすが寒いと思つた部隊／長は御機嫌演芸後玉子うどんを／戴き九時帰宿す又しても二時まで／編物をする、

十二月二十七日　曇／九時半より国際クラブへ行く女青の人々と／お話をする、十二時半渡辺部隊より／迎えあり昼食ぬきで演芸を開始す／る白衣の勇士ばかり三水の市江部隊／長も居られた終了後四時大忙しぎにて／佐藤部隊へ行く部隊長は通訳／をつれて当地の上流家庭を訪問二軒／程見学それより通訳の家にて家族／と共に御馳走になる、七時半平山／部隊へ行く八時より演芸開始十一／時半終了それより将校食堂にて／二時半まで会食する、三時過ぎ帰／宿着床す。

十二月二十八日　曇／午前午后休養夕食後松本部隊行く／演芸のマイクの調子悪く将校は困つて／ゐる白井さんの三りん棒間違ひばかり／九時半頃終了後肉うどん、ぜんざい／二ハイ戴く主計少尉は感じの悪い人で／あつた帰宿二時頃休む

十二月二十九日　曇／九時半奥村部隊より迎え来る／十時過ぎより演芸開始十二時午前の部を／終り部隊長と会食後重症患者の／お部屋で唄ふ先立つのは涙ばかり／二時半より午后の部を始める五時半終り／宿舎に帰る、境軍曹迎えに来りて／兵団へ行き寿き焼にて夕食をなし／映画を見る司令官とお話などしてゐる／中に十時は過ぎ十一時に帰宿後着／床する、

十二月三十日　晴／十時佐藤部隊より迎え来り行く防／疫給水等の説明を聞く標本など／見る給水車の働きに見取れる昼食後／演芸開始四時半終了宿舎に帰る夕／食後六時半西村部隊（隼部隊）／より迎えあり東山演芸場へ行く七時／半より開始十時半宿舎に帰り入／浴洗濯などする、十七年も明日一／日となる

十二月三十一日　晴／九時半節兵団よりの迎えにより行く／十時半兵団長に挨拶の後演芸を始／め十二時半午前の部を終る昼食を／兵団長と共にする三時より午後の部／を始める

五時半終る続いて会食す／十七年最後の夜の宴会である外地／で迎える昭和十八年故国をはなれ／て楽しきお年越し。／将校連も我等と共にほがらかに時を／忘れてさわぐ十一時半帰宿し編／物などして過ごす昭和十七年よ左／様なら二度と再び来ることのない月／日よ。

昭和十八年一月元旦／午前一時広東神社へ参拝汗かいて／部隊と共に朝詣でお正月の様な気がし／ない十時大倉部隊で四方拝十一時／司令部より迎えのバス来たり司令部／の四方拝に参列する一同帰途広東／郵便局にて故国へ電報するお昼／は吉見少佐の家に行き後平山部隊長／に年頭の挨拶部隊長を迎えて吉見／さんの家で御馳走になる夕方七時帰／宿し夜間他の慰問団を観る

一月二日　晴／午前十時兵団より迎え来たり和服を／着用して行く昼食を戴き軍楽／隊の演奏を聴く其の後お名残の演／芸を披露する終つて宿舎に一旦帰り／団服に着換えて南苑酒家に行く／朝日新聞社の招宴で色々の姑娘の／歌を聞く十一時頃帰宿着床す

一月三日　晴／十一時南支軍へお別れの挨拶に行く／新華食堂にて洋食にてお別れの宴／を開いて下さる午后四時お別れして帰る／体をいため注射などして休む安静／せよとの事なれど五時迎え来て池永／部隊へ行く途中白十字にて明日の昼／食を貰ひ続いて堀井部隊長に挨拶／に行く高地少尉運転する車故安心助／手席なので身体が楽である部隊長／出迎え下さる種々御馳走を戴くが／何も食べないのでコーヒーやミルク等を／戴く将校方は御機嫌高地少尉は／無理に御飯を食べさせられる八時／帰宿節兵団の長束・清水少尉滝／口少尉お土産持参お別れに来たる／出発の仕度終りて休む二時なり　　〈以下（下）に続く〉